

## 京丹波町質美

ヒアリング対象：浅田容子さん  
カフェ FUDOKi オーナー

「地域×アート×子ども」を  
キーワードにコツコツがんばります。



川那辺香乃さん

BRDGの代表(舞台芸術の公演・ワークショップなどを企画・実施)旧質美小学校を利用した、ワークショップイベントを2012年11月に開催



### ○住み始めたきっかけ

ご主人が陶芸家で久美浜の出身、浅田さんは香住の出身。日本海側で育ったご夫婦だ。京都市内から近くて焼き物ができる場所ということで、先にご主人が質美に移り住み、浅田さんも引っ越してきた。

### ○田舎に暮らして

浅田さんは都会暮らしの経験がないためか、何故今多くの方が田舎で子どもを育てたいと思うのかがわからなかったという。しかし、最近旧質美小学校でカフェを始め、人と出会い話をしていくなかで、自分自身の中に田舎で育った時の記憶が今に活かされているということに気づいた。

### ○田舎に暮らして

「例えば、石とか石垣とかが好きなんだけど、それは子どもの頃海辺の岩場で遊んでいたからなのよね。焼き物などの土っぽいものも自然の中で見てきたからで。いつの間にか無意識的に自分の考え方の基本が自然の中で培ってきたものだったみたい。」

一方で、都会に対しての憧れは少しある模様。新しいものが入ってこないから、都会が羨ましいとは感じるそう。でも「なければないで、なんとかなるもの」

## ○質美で子育て

浅田さんには、現在2人のお子さんがいる。移住してすぐの頃は、慣れるまでこちらがどこまで付き合ったらいいかわからなかったそうだが、子どものおかげで、スムーズに地域とつながっていきえるようになった。特に面白かったことは、子どもと同級生のおばあちゃんが声をかけてくれるようになったこと。そして、子どもはこの風景や季節感などが人格形成のもとになっていると、自分が子どもの頃のことを思い出されながらゆっくり話す。それは無意識のうちのこと、本人たちにはもちろんわからないだろうけれど、と。

## ○阿吽坊〜カフェ FUDOKi ~旧質美小学校のこと

阿吽坊は6〜7年前にオープン。2人目のお子さんが小学生に入ったくらいにできた。浅田さんのご実家は民宿で、ずっと料理に携わってきた。阿吽坊では、ご主人の器に浅田さんが料理を盛る。ただ器だけじゃなくて実際料理を盛ったところを見てもらいたいということ、好きな人に楽しんでもらいたいという思いがあって始められた。

浅田さんの根底には、来てくれた人に「喜んでもらいたい」「明日からがんばろう」と思ってもらえる場所・空間を作りたいという「作り手」としての考え方が流れている。「カフェ FUDOKi でも同じこと。いつ来ても楽しんでもらえるようにしたい。」

旧質美小学校でのこれからについてどう思われますか？と尋ねたところ、「無理に作るんじゃなくて、自然といろんなものと交流できたらと思う。」と浅田さん。「まちおこしには20年かかるとある人に言われたことがある。結果をすぐに求めてしまうとできない。長い目で見て、自分が楽しかった、じゃなくて次の世代にバトンを渡せるようにしたい。」と言っていた。

※阿吽坊・・・浅田さんがご自宅で行っている食事処。

